

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 3 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24300241

研究課題名(和文) 生きる力を育む「幼児のための生き物を介在した保育システム(AAEFC)」の構築

研究課題名(英文) The educational system for animal assisted education for children

研究代表者

谷田 創 (Tanida, Hajime)

広島大学・生物圏科学研究科・教授

研究者番号：20197528

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,800,000円

研究成果の概要(和文)：わが国の幼稚園では明治期から生き物飼育が伝統的に行われてきたが、現在では保育者の知識不足と意識の低下による不適切な飼育や不衛生な管理、幼児への誤った指導などが増加している。また近年は子どもが自然の中で生き物に触れる機会が少ない。本研究は、「幼児のための生き物を介在した教育システム(AAEFC)」を確立し、幼稚園や保育園における生き物飼育を通じた保育を再構築することで、子どもの生きる力の育成を目指した。研究の成果として、伴侶動物、昆虫、飼育動物、動物園動物、産業動物(家畜)を介在した幼児のための教育システムを確立することができた。さらに、その成果を現場の保育に生かすための指南書として出版した。

研究成果の概要(英文)：Most of Japanese kindergartens have been keeping small animals for educational use since Meiji era which is very unique educational system compared to overseas. However, most of the present teachers at Japanese kindergartens do not have knowledge on animals (management methods, biology of animals etc.) and their perception toward animals' life is poor, which leads to inappropriate management of animals and unhygienic keeping conditions of animals. On the other hand, all of the circumstances surrounding children were unfavorable such that they have a very few chances to contact with animals in nature. Therefore, our study developed the educational system for assisting children in kindergartens to contact with different kinds of animals such as companion animals, insects, animals at kindergarten, farm animals and zoo animals. We also published guide books of animal assisted education for teachers to use at kindergartens and nursery.

研究分野：人間動物関係学

キーワード：保育 動物介在教育 生き物教育 幼児 動物の福祉 飼育動物 幼児教育

1. 研究開始当初の背景

子どもの生活は、ゲームやネットへの過度の依存による現実と仮想世界の混同、自然の中で体を動かしながら生き物にふれて育てる体験の不足、生き物の誕生と死を肌で感じる体験の喪失、都市型社会の中での不規則な生活など、人間本来の生活環境から遊離し、それが子どもの心身の成長に悪影響を及ぼしているといわれている。文部科学省の調査では、全国の小中高校で「いじめ」として認知された件数が7万件を超え、不登校児童は2万人を超えた(平成21年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」)。また、自殺した児童・生徒は年間165人に上っている。小学校の学級崩壊も顕在化しており「小1プロブレム」と呼ばれている。さらに平成22年度の文科省の調査によると、子どもの日常生活における運動不足が体力格差を拡大している。これらの背景を踏まえて、中央教育審議会では、利己的欲求を抑制できずに突然切れる子どもや他者を傷つける子どもの急増に対して、体を動かし生き物とふれあうことで命の大切さや他者への思いやりを学ばせることを提言しており、生き物を通じた保育の重要性を指摘している。

国外ではすでに1970年代から、生き物を介在した様々な活動(AAI: Animal Assisted Intervention)が実践されており、動物行動学、獣医療、精神生理学、教育学などの分野の研究者によって、生き物とのふれあいがヒトの心身に与える効果についての科学研究がなされ、子どもの学習支援や精神的外傷の緩和、情緒的問題の軽減、運動不足の解消、精神衛生の向上に貢献することなどが報告されている(Levinson, 1972; Blue, 1986; Frith, 1982; Bailey, 1988; Covert et al., 1985; Davis, 1987; Mader et al., 1989)。また、AAIを実施するには、用いられる生き物のQOLに配慮すること(動物福祉: Animal Welfare)が必須条件とされている。AAIの関係団体として、米国のデルタ協会、英国のSCAS、フランスのAFIRIC、国際組織のIAHAIOなどが設立されている。

一方、明治以来わが国の幼稚園では、植物栽培や生き物飼育を通して幼児の情操を育む教育に取り組んで来た長い歴史がある。教育機関における生き物飼育がほとんど行われていない海外に比べて、幼稚園や小学校における生き物飼育はわが国が誇る伝統的な教育である。しかし、生き物飼育を特にAAE(Animal Assisted Education: 動物介在教育)として認識し、科学的に評価しようとする試みはほとんど行われてこなかった。また、近年における幼稚園の生き物飼育に関する実態についても明らかではなかった。そこで本研究からは、わが国の幼稚園における生き物飼育の現状と役割をAAEの視点から明らかにするために、長年にわたって詳細なフィールド調査を行ってきた(谷田ら,2001; 掘見ら,2009; 谷田ら,2010)。その結果、わが国

では現在でも生き物を飼育している幼稚園が8割近くにもものぼることが確認されたが(谷田・木場,2004)。その一方で、1)生き物飼育の目的の不明確さ、2)生き物飼育に対する保育者の知識と意識の低さが明らかとなり、そのことが以下に挙げるような様々な問題につながっていた(谷田・木場,2008; 谷田ら,2010)。

2. 研究の目的

背景で述べたように、わが国の幼稚園では明治期から保育の一環として生き物飼育が伝統的に行われてきたが、現在では、保育者の知識不足と意識の低下による不適切な飼育や不衛生な管理、幼児への誤った指導など、生き物飼育による本来の保育の意義が見失われ、飼育の形骸化が幼児の心身に悪影響を及ぼしているという報告もある。その一方で、近年は子どもをとりまく環境が大きく変貌しており、物質的な豊かさは享受していても、自然の中で生き物に触れるなどの屋外遊びの場が奪われたことにより、子どもの「生きる力」が低下したとする指摘がある。そこで本研究は、保育学、教育学、精神生理学、獣医学、動物行動学、動物介在教育学の専門家が有機的に関わり、「幼児のための生き物を介在した保育システム(AAEFC)」を確立し、幼稚園や保育園における生き物飼育を通じた保育を再構築することで、子どもの「生きる力」の育成を目指す。

3. 研究の方法

本研究は、幼稚園の子ども、保育者、生き物(昆虫などの小さな生き物からウサギや犬、家畜などのほ乳類まで)の3者を調査対象とする。平成24年度は、理想的な生き物飼育を実践している園と生き物飼育に問題を抱えている園を比較調査した上でAAEFCの骨子を立案するとともに、生き物飼育が困難な幼稚園や保育園のために、動物園や農場の利用、犬やポニーの訪問による代替AAEFC立案のための予備調査を行うこととした。平成25年度は、平成24年度に立案したプランに基づいて、子どもの視点(保育)と生き物の視点(動物福祉)から、現場で利用可能なAAEFCコンテンツを作成することとした。平成26年度は、選抜した調査対象幼稚園に対して作成したAAEFCを実施することとした。平成27年度は、代替AAEFCを含む総合的なAAEFCシステムの効果の評価と、本研究成果の実用化に向けてのガイドラインとアクションプランを提案することとした。

4. 研究成果

4年間の研究成果として、伴侶動物、飼育動物、動物園動物、産業家畜、昆虫などを介在した「AAEFC」を実施するためのコンテンツとプログラムを開発することができた。その成果の一部はiPadなどのタブレットを介して、幼稚園や保育園の生き物教育に用いる

ことが可能となった。さらに、本研究成果として、保育現場において「幼児のための生き物を介在した保育システム (AAEFC)」を実践するための保育者への指導書として、平成 26 年度に「保育者と教師のための動物介在教育入門 (岩波出版)」、平成 27 年度に「保育線、幼稚園でのちいさな生き物飼育手帖 (かもがわ出版)」を出版した。今後さらに、本研究成果を保育の現場にフィードバックすることにより、わが国の幼稚園が伝統的に行ってきた生き物飼育を科学的根拠の元実践することが可能となる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 17 件)

1. 森元真理, 谷田 創, 幼稚園におけるウサギを介在させた教育に関する研究-幼稚園の飼育ウサギに対する名づけの有無と飼育管理状況との関連性について-, *Veterinary Nursing*, 20, 査読有, 2015, pp1-8
2. 七木田 敦, 幼稚園保育所における不器用に配慮した保育の工夫, *チャイルドヘルス, 診断と治療*, 18, 査読有, 2015, pp18-21
3. 君岡智央, 森脇有紀, 中山芙充子, 谷田 創, 森元真理, 木場有紀, 岩本 彩, 幼稚園の飼育動物を介した教育 (AAE) に関する研究, *広島大学学部・附属学校共同研究紀要*, 43, 査読無, 2015, pp231-238
4. 久原有貴, 関口道彦, 小鴨治鈴, 松本信吾, 七木田 淳, 杉村伸一郎, 中坪史典, 上田 毅, 松尾千秋, 森の幼稚園の園児および卒園児の身体活動量と体力・運動能力との関係, *広島大学学部・附属学校共同研究紀要*, 43, 査読無, 2015, pp25-32
5. Tanida Hajime, Iwamoto Aya, Equine assisted education for children as a social contribution by a Japanese university equestrian team, *Proceedings of 11th International Equestrian Science Conference*, 査読有, 2015, pp59
6. Iwamoto Aya, Tanida Hajime, Present situation of Japanese university equestrian teams, *Proceedings of 11th International Equestrian Science Conference*, 査読有, 2015, pp73
7. Morimoto Mari, Tanida Hajime, Naming choice of rabbits kept at Japanese kindergartens is related to names of rabbits appearing in children's stories, *Proceedings of 23rd Annual Meeting of the*

International Society for Anthrozoology, 査読有, 2014, pp200

8. Tanida Hajime, Koba Yuki, Hashimoto Akira, Effects of weekly dog assisted visits on children's perceptions of welfare of animals kept in Japanese kindergarten classrooms, *Proceedings of 23rd Annual Meeting of the International Society for Anthrozoology*, 査読有, 2014, pp201

9. Iwamoto Aya, Tanida Hajime, Koba Yuki, A method for measuring the daily rhythms of resting behavior to enhance the welfare of athletic horses, *Proceedings of 10th International Equitation Science Conference*, 査読有, 2014, pp60

10. 日切慶子, 関口道彦, 小鴨治鈴, 久原有貴, 松尾千秋, 杉村伸一郎, 七木田 敦, 森の幼稚園の保育環境が幼児の体力・運動能力に及ぼす影響: KMS 幼児運動能力検査および新体力テストによる検討, *広島大学学部・附属学校共同研究紀要*, 42, 査読無, 2014, pp249-256

11. Morimoto Mari, Tanida Hajime, Knowledge and attitude of teachers towards rabbits in Japanese kindergartens keeping them for educational purposes, *Proceedings of 22nd Annual Meeting of the International Society for Anthrozoology*, 査読有, 2014, pp59

12. Morimoto Mari, Koba Yuki, Tanida Hajime, Ability of teachers to manage kept for educational use in Japanese kindergartens, 2013 *Triennial International Conference in Collaboration with 150th Annual Convention of American Veterinary Medical Association*, 査読有, 2014, pp24

13. 掛 志穂, 森脇有紀, 池田明子, 森元真理, 木場有紀, 谷田 創, 幼稚園の飼育動物を介在した AAE に関する研究-幼稚園の高齢化した飼育ウサギとのかかわりを通じた心の育み-, *広島大学学部・附属学校共同研究紀要*, 41, 査読無, 2013, pp141-149

14. 伊藤 有, 保木井啓史, 七木田 敦, 森での遊びにおける幼児の関わりについての研究-「できる/できない」を超えて-, *幼年教育研究年報*, 35, 査読有, 2013, pp63-68

15. 森元真理, 木場有紀, 谷田 創, 広島県下の幼稚園におけるウサギの飼育管理に関する調査-主成分分析を用いたウサギの飼

育管理状況の評価-, ヒトと動物の関係学会誌, 32, 査読有, 2012, pp48-56

16.木場有紀, 谷田 創, 子どもの社会性をはぐくむペット飼育(特集 子どもの社会性を育む), こどもと発達発達, 10, 査読無, 2012, pp229-234

17.七木田 敦, 飯野祐樹, 大野 歩, 就学前施設における動物介在教育に関する研究-オーストリア・グラーツ市の事例より-, 幼年教育研究年報, 34, 査読有, 2012, pp79-84

[学会発表](計17件)

1.石川実佳, 橋本 昭, 木場有紀, 谷田 創, 介在犬と飼育動物を通じた幼児のための介在教育プログラムの開発-保育者と連携した少人数教育プログラムの試み-, 第22回ヒトと動物の関係学会学術大会, 2016年3月5日-3月6日, 東京大学(東京都)

2.谷田 創, 動物介在教育は必要か?-動物介在教育と動物福祉-, 第22回ヒトと動物の関係学会学術大会(招待講演), 2016年3月5日-3月6日, 東京大学(東京都)

3.岩本 彩, 谷田 創, 幼児のための馬を介在した教育プログラムの開発-乗馬後に幼児が描いた絵は教育効果の測定指標の一つと成りうるか?-, 第20回ヒトと動物の関係学会学術大会, 2016年3月8日-3月9日, 東京大学(東京都)

4.山下久美, 首藤敏元, 鑄物太郎, 谷田 創, 岩本 彩, 木場有紀, 幼児期の動物飼育が与える影響-高校生アンケートからの考察-, 第68回日本保育学会, 2015年5月9日-5月10日, 椙山女学園大学(名古屋市)

5.岩本 彩, 木場有紀, 山下久美, 谷田 創, 保育系大学生のための家畜介在型食農フィールド教育に関する研究, 第68回日本保育学会, 2015年5月9日-5月10日, 椙山女学園大学(名古屋市)

6.渡辺 魁, 森元真理, 飼育ガメを介した環境教育プログラムの開発に関する研究, 第54回日本理科教育学会関東支部大会, 2015年12月5日, 茨城大学(水戸市)

7.田村晴奈, 森元真理, 苗川博史, 神奈川県下の小学校における飼育動物に関する調査, 第54回日本理科教育学会関東支部大会, 2015年12月5日, 茨城大学(水戸市)

8.森元真理, 谷田 創, 動物の専門家との連携による高齢ウサギの飼育と幼児教育, 日本保育学会第67回大会, 2014年5月17日-5月28日, 大阪総合保育大学・大阪城

南女子短期大学(大阪府)

9.森元真理, 谷田 創, 大学生に食農教育は必要か?-広島大学附属農場で実施している家畜介在型フィールド教育-, 第63回日本理科教育学会全国大会, 2013年8月11日-8月12日, 北海道大学(北海道)

10.岩本 彩, 谷田 創, 馬に配慮した動物介在教育プログラムの開発, 第19回ヒトと動物の関係学会学術大会, 2013年3月9日, 東京大学(東京都)

11.折口元気, 星野優也, 橋本 昭, 木場有紀, 谷田 創, 幼稚園に対する犬の訪問活動を通じた動物介在教育に関する研究-愛護センター譲渡犬を対象とした介在犬育成のための訓練過程の検証-, 第19回ヒトと動物の関係学会学術大会, 2013年3月9日, 東京大学(東京都)

12.谷田 創, 動物を介在した療法・活動・教育に関する実践と研究, 日本畜産学会第116回大会(招待講演), 2013年3月30日, 安田女子大学(広島県)

13.森元真理, 木場有紀, 谷田 創, フィールドセンターを活用した酪農フィールド教育の効果の評価, 日本畜産学会第116回大会, 2013年3月30日, 安田女子大学(広島県)

14.森元真理, 木場有紀, 谷田 創, 幼稚園における動物飼育に関する研究-ウサギに対する『名づけ』が飼育環境に及ぼす影響について-, こども環境学会2012年大会, 2012年4月20日, 仙台国際センター(宮城県)

15.山下久美, 鑄物太郎, 幼児と飼育するに適した虫の種類について, 日本保育学会第65回大会, 2012年5月5日, 東京家政大学(東京都)

16.森元真理, 木場有紀, 谷田 創, 幼児を対象とした動物介在教育の評価に関する研究-幼稚園における飼育動物との関わりは幼児の心に何を育むのか?-, 第62回日本理科教育学会全国大会, 2012年8月11日, 鹿児島大学(鹿児島県)

17.木場有紀, 安部 絵莉, 小田 実里, 河本由佳, 白石 麻奈, 蔵面 大地, 望月 悦子, 谷田 創, 園児と保育者を対象とした動物介在教育のための補助教材の開発-幼稚園で飼育されているウサギの飼育管理に関する教育的アドバイス-, 日本教材学会第24回研究発表大会, 2012年10月20日, 福山大学(広島県)

[図書](計3件)

1.山下久美, 鑄物太郎, 保育園・幼稚園での
ちいさな生き物飼育手帖, かもがわ出版,
2015, pp148

2.谷田 創, 木場有紀, 保育者と教師のため
の動物介在教育入門, 岩波書店, 2014,
pp208

3.七木田 敦, 杉村伸一郎, 中坪史典, 松井
剛太, 河野利津子, 小田 豊, 山崎晃, 幼児
学用語集, 北大路出版, 2013, pp265

6. 研究組織

(1)研究代表者

谷田 創 (TANIDA HAJIME)
広島大学・大学院生物圏科学研究科・教授
研究者番号：20197528

(2)研究分担者

七木田 敦 (NANAKIDA ATSUSHI)
広島大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号：60252821

木場 有紀 (KOBA YUKI)
帝京科学大学・こども学部・准教授
研究者番号：30610703

小川 景子 (OGAWA KEIKO)
広島大学・大学院総合科学研究科・准教授
研究者番号：70546861

望月 悦子 (MOCHIDUKI ETSUKO)
福山平成大学・福祉健康学部・教授
研究者番号：80389080

森元 眞紀子 (MORIMOTO MAKIKO)
中国短期大学・保育学科・教授
研究者番号：60442357

櫻井 富士朗 (SAKURAI FUJIRO)
帝京科学大学・生命環境学部・教授
研究者番号：90570705

岩本 彩 (IWAMOTO AYA)
広島大学・大学院生物圏科学研究科・助教
研究者番号：60758217

村尾 信義 (MURAO NOBUYOSHI)
倉敷芸術科学大学・生命科学部・助教
研究者番号：20542062

山下 久美 (YAMASHITA KUMI)
東洋英和女学院大学・人間科学部・准教授
研究者番号：80410158

森元 真理 (MORIMOTO MARI)
東京農業大学・農学部・助教